

## まちなか自習室の拡充に向けて

～子どもたちの「学びの場」を地域の力で支える～

### ■ 背景と課題

神戸市では、放課後に中高生が安心して勉強できる場所を提供する「まちなか自習室」の整備が進められています。2025年度は、スマートフォンで簡単に利用できるシステムを構築し、民間のカフェやコワーキングスペースなどを活用して、各区1か所以上・市内15か所以上での設置が目標とされています。

ただし、全ての場所が中高生にとって最適な環境とは限らず、たばこの煙や静けさの確保といった課題もあります。

### ■ 平野達司の提案

私は、まちなか自習室の更なる拡充にあたって、以下のような具体的提案を行いました：

- 商店街や、市場の空きスペース（会議室、組合事務所、空き店舗など）を活用することで、
  - ① 中高生のアクセスしやすい立地を確保しながら、
  - ② 商店街・市場のにぎわい創出にもつながる可能性がある。
- シニアポイント制度（神戸シニア元気ポイント）や「ぼらくる」などの市民参加制度を活用し、見守りや受付などの人材を確保する仕組みを導入すれば、より多くの場所での実現が可能になる。
- 実際に市場・商店街側からも前向きな声があり、これをモデルケースとして活用することで、地域全体の活性化と学習支援を同時に進められる。

### ■ 市の答弁と今後の展開

副市長からは、「商店街や市場の空きスペースを活用したいという申し出があれば、立地・時間帯・環境など中高生が利用しやすいかという視点から、前向きに具体的な検討を進めたい」との答弁がありました。

### ■ 平野達司の想い

中学生、高校生より、放課後、自宅以外で安心して勉強（自習）ができる場所の希望が増えてます。

だからこそ、地域に「学びの場」をつくることは、大人たちの責任です。

そしてその場所が、地域の商店街や市場なら、子どもたちと地域がつながるきっかけにもなります。

私はこれからも、地域と子どもがともに育つ仕組みづくりを全力で進めていきます。



質疑動画



### トピックス！！

地域で支える学びの場「まちなか自習室」が2025年7月からスタート！  
企業や店舗と連携し、市内39か所のカフェやカーディーラー等の店舗で、中高生向け無料の自習スペースを開設。安心して学べる場を地域ぐるみで広げます。

## 貧困ビジネスから生活とまちを守る

～ケースワーカー・民生委員の現場の声を活かした対策を～

### ■ 背景と問題意識

神戸市では、老朽化した住宅に生活保護受給者を囲い込む、いわゆる「貧困ビジネス」とされる実態について、ケースワーカーや民生委員の方々から現場の声が寄せられています。

こうした実態は、

- 劣悪な居住環境による人権の侵害
  - 地域景観やまちのイメージの悪化
- といった問題につながりかねません。

しかし、最前線で接するケースワーカーや民生委員の方々が、危険や不安を感じながらも、情報を一人で抱え込んでいる状況は看過できません。

### ■ 平野達司の提案

私は、次のような対策が必要であると提案しました：

- 現場で得られる“違和感”や“小さな異変”を情報としてしっかり集約できる**仕組みづくり**  
→ 情報収集をケースワーカー任せにせず、受け皿をつくるのが重要です。
- 関係機関（警察や法的支援機関）と**密接な連携体制**を構築し、疑わしいケースは早期に共有・対応する体制をつくること。

こうした仕組みがあれば、現場での不安や恐怖感を軽減しながら、貧困ビジネスへの対抗手段を市全体で確保できます。

### ■ 市の答弁と今後の展開

副市長からは、以下のような答弁がありました：

- ケースワーカーによる訪問調査を通じて住環境や契約状況を把握しており、不適切な住環境が確認されれば、**法テラス（日本司法支援センター）等の支援案内や転居支援**も行っている。



質疑動画



2025年6月9日の本会議場での質疑